TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵 すべての人の奴隷
コリントの信徒への手紙一 9:19-27

2025年5月10日 & 11日
余沢 武 牧師

はじめに

こんにちは。2週間後に、毎年恒例のファミリーギャザリングがあり、その時に予算の承認をします。TBCの教会員で、当日に出席できない場合は、「不在者投票用紙」を出してください。名前を記入し、チェックを入れて、後ほど献金かごに入れてください。

母の日、おめでとうございます！ 「母の日」の週末です。すべてのお母さんに感謝して、お祈りしたいと思います。母親のみなさん、お立ちください。お母さんたちのために祈りましょう。

コリントの信徒への手紙一では、パウロがコリントのクリスチャンたちに、弱い兄弟たちのつまずきを防ぐために、自分が使徒として経済的な助けを得る権利を放棄したように、偶像に捧げられた肉を食べる権利も放棄するようにと言いました。パウロはそれが自分への「報酬」だと言っています。

すべての人の奴隷
自ら奴隷になった

今日はその理由を見てみましょう。 **1 コリント 9:19** ：「[19] 私は誰に対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷となりました。より多くの人を得るためです。」

パウロは、自分は「自由な者」であり、何でもできる自由があると言います。彼はその自由で何をしたでしょうか。彼が言うには、より多くを勝ち取るため、人々の救いのために、すべての人の奴隷になることを選んだということです。

20-22 節:「[20] ユダヤ人には、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法の下にある人には、私自身はそうではありませんが、律法の下にある人のようになりました。律法の下にある人を得るためです。[21] 私は神の律法を持たないのではなく、キリストの律法の内にあるのですが、律法を持たない人には、律法を持たない人のようになりました。律法を持たない人を得るためです。 [22] 弱い人には、弱い人になりました。弱い人を得るためです。すべての人に、すべてのものとなりました。ともかく、何人かでも救うためです。」

彼は、私自身は律法の下にありませんと言っています。旧約聖書の律法をすべて満たしたイエスを受け入れたので、律法に従わなくとも神に受け入れられるのです。

しかし、彼は言います。

パウロはユダヤ人や旧約聖書の律法に従う異邦人の改宗者たちと一緒にいるときは、彼らのようになりました。そうすれば、彼らがイエスに従うよう導くことができたからです。
パウロは、律法を持たない人々、つまり異邦人や異邦人のクリスチャンと一緒にいるときは、イエスに対する罪を犯さない限り、彼らのようになりました。そうすれば、彼らがイエスに従うように導くことができたからです。
パウロは弱い人々、つまり偶像に捧げられた肉を食べて偶像を崇拝することになってしまうような、正しい判断力のない人々と一緒にいるときも、彼らのようになりました。そうすれば、彼らをイエスに従うように導くことができたからです。

パウロは言っています。「すべての人に、すべてのものとなりました。ともかく、何人かでも救うためです。」まさに、これがイエスのなさったことです。

なぜイエスが来られたかを説明するお話があります。ある日、父親が 5 歳の息子を連れて土の小道を歩いていました。ふたりは、誰かに踏みつけられたアリ塚の所へ来ました。

その小さな男の子は言いました。「お父さん、僕たちが降りて行って、アリたちに愛してるって、助けたいって言えたらいいと思わない？」父親は言いました。「たったひとつの方法は、アリになって、アリのところへ行って、アリのように話すことだよ。そうしたら、アリにわかってもらえて助けを受けてもらえる。」

これがイエスのなさったことです。イエスは神の子としての権利を放棄し、人となり、人のように私たちのところに来て、人のように私たちと話し、私たちを救うために自らを提供してくださいました。
パウロもそうしました。彼は自分の権利を放棄して、彼らの一人となり、彼らのように相手の所へ行き、彼らのように話し、彼らをイエスのもとへ導きました。
パウロは言います。これが、キリストに従う者として、

コリントの人々や私たちがすることであると。

例えば、私たちが日本で非クリスチャンやクリスチャンと一緒にいるなら、私たちは自分たちの権利を放棄して、彼らの一人となり、彼らのところへ行き、彼らと時間を過ごし、彼らと食事をし、彼らのように礼儀正しくして、彼らのようにゴミを分別し、彼らのように静かにするでしょう。

そして、そのような関係を通じて、私たちは彼らをイエスのもとに導き、偶像崇拝、酔っぱらうこと、欲望に屈すること、噂話、お金や成功を美化するのを止めさせることができます。

問題が一つあります。私たちは自分たちの権利と快適さを放棄しなければならないことです。つまり、教会でクリスチャンと非クリスチャンに働きかけるだけでも、大きな犠牲が必要です。私たちは教会に来て、彼らの名前を知り、彼らと一緒に過ごし、彼らの生活に関わらなければなりません。私たちは何のためにそうするのでしょうか。

23 節:「福音のために、私はすべてのことをしています。福音に共にあずかる者となるためです。」

パウロは、私たちが福音の祝福に共にあずかる者となるために行っていると言っています。私たちが非クリスチャンを福音に導き、クリスチャンが福音によって成長できるように手助けするとき、私たちも福音によって変えられるのです。このように進みます。

はじめ、私たちは、自分の権利、自分の時間、自分の自由を他人のために放棄するのをためらいます。
そして、自己中心などの罪に直面します。そして十字架によってイエスの赦しを受け入れます。
自分自身を犠牲にして、イエスのように神と人を愛することを学ぶのを助けてくださるよう神に祈ります。
そうすれば、イエスの性格、イエスの愛を身につけるようになり、私たちは福音によって変えられます。

私たちは、福音の祝福を分かち合うことになるのです。ですから私は、教会で他の人と話をしない人やオンラインでだけ礼拝する人が心配です。そういう人たちは、祝福を逃しているかもしれないからです。

(1) 賞を受けられるように走る

24-25 節:「 24 あなたがたは知らないのですか。競技場で走る人たちは、皆走っても、賞を受けるのは一人だけです。あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。25 競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるために節制するのです。」

パウロは、クリスチャンの生活は、競技に向けてトレーニングをする運動選手のようなものであるべきだと言っています。古代世界には、4 つの主要な競技がありました。一つ目はオリンピックでした。二つ目はコリントス郊外で開催されたイストミア大祭です。選手たちはそのために厳しいトレーニングをしていました。

それは今でも同じです。先日、NFL ドラフト一巡目で指名されたアメリカンフットボール選手のインタビューを見ました。彼は、中学生のとき、つまり 11 歳くらいのときから、このときのために食事やその他すべてを犠牲にしてきたと言いました。

なぜそれほどの犠牲を払うのでしょうか。パウロの言うところでは、イストミアの選手たちの場合は、松の葉で作られた「朽ちる冠」を受け取るためでした。その競技で誰が勝ったか知っていますか？ 誰も知らないし、誰も気にしていません。でも、彼らは勝利を手にするために生涯を通じて厳しい「自制心」を働かせていました。

パウロは次のように言います。「クリスチャンたち、なぜ私たちは『朽ちることのない冠』、つまりイエスの人格、他者に対するイエスの犠牲的な愛を得るために、厳格な『自制心』を働かせないのだろうか？」

26-27 節:「 26 ですから、私は、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。 27 むしろ、自分の体を打ち叩いて従わせます。他の人に宣教しておきながら、自分のほうが失格者とならないためです。」

パウロによれば、キリスト教徒として生きるには二つの方法があります。
#1 目的もなく走ったり、空を打つようなボクシングをしたりします。つまり、ただ形式的にやるのです。
#2 厳しい管理の下で、賞を受けることを目指します。

私が米国の大学院生だったとき、英語で速くメモを取れなかったので、受けた授業はすべて録音しなければなりませんでした。とても役に立ちましたが、1時間の授業を聞くのに 4～6 時間かかりました。そのため、毎日 3、4 時間しか寝られませんでした。

でも学校は、私が日本で受けた授業をもとに、いくつか授業を聴講することを許可してくれました。私はその授業が大好きでした。勉強する必要はありませんでした。その授業から何か学んだでしょうか？ 正直

に言えば、ノーです。あの難しい授業が私を形づくり、人生で必要な規律を教えてくれました。

パウロはこう言いました。「私は自分の体を鍛え、厳しく管理します。」なぜでしょうか？「他の人に説教した後で、自分が失格にならないようにするためです。」

私たちが福音のために自分の権利を放棄するとき、他の人が変わるのを助けられます。しかし、私たちが得る最大の「報酬」は、私たち自身が福音によって変わることなのです。
私がクリスチャンになったばかりの頃、非クリスチャンの頃からの飲酒の習慣が残っていました。教会の仲間にはライトドリンカーもいました。でも、全くお酒を飲まない男の人が一人いました。そこで私は彼に尋ねました。「なぜ飲まないのですか？」

彼は言いました。「シラフでいたいので」。彼は優しい人でした。私に同じようにしなさいとは言いませんでした。でも、ある日、私は彼のようになろうと決意しました。それ以来、私は酩酊の罪を犯していません。

何年も前、日曜の夜の礼拝後に、私たちの5〜6人くらいが一緒に駅まで歩いて行ったものです。鉢山交番の前では必ず赤信号になります。でも車が来ていなかったので、私たちはみんな赤信号を無視して道路を渡りました。

でも、渡ろうとしない兄弟が一人いました。そのため、私たちは彼を待たなければなりませんでした。彼をからかう人もいました。それでも彼は赤信号を渡ろうとはしませんでした。神が定めた統治機関に背きたくなかったからです。ある日、私も同じことをしようと決心しました。

ほかの牧師と一緒に仏教の葬儀に行ったことがあります。私は私たちがすべきではないと言ったことをしました。死者の霊に祈っているふりをしながら、そこにいるすべての人々の救いを神に祈ったのです。葬儀の後、牧師は優しく言いました。「祈りましょう」。
彼は、もし私たちが神に対して何らかの罪を犯していたなら、赦してくださいと神にお願いしました。その日、私はもう二度と死者の位牌や遺影の前で祈らないと決意しました。

これらの人々が神を敬い、私と人生を分かち合うことをいとわなかったので、私は彼らによって変えられました。しかし、注目してください。彼ら自身がイエスの似姿に形作られていたことに。そして、それは明らかでした。

これらはどれも簡単ではありません。私たちは、神の知恵を通してしか変われません。私たちの罪深さを認めること、神の赦しを受け入れ、神の助けを求めることによって、です。

パウロは諦めてはいけないと言います。目標を追求し、神と人を愛し続けましょう。そうすれば他の人を励ますことができるだけでなく、私たちの人生そのものが福音によって形作られるのです。そして私たちは神が私たちの中で働いておられることを知るでしょう。
もし福音をまだ受け取っていないなら、受け取ることをお勧めします。そうすれば、あなたの人生が変わります。そして、神と他者に対するあなたの愛を通して、他の人々も変えられ、あなたもまた変えられるのです。

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg2025jp

奉仕者募集中！

急募！

1．日本語訳レイアウト&印刷（女性 3 名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の操作ができる方。
英語のスキルは必要ありません。

*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org

★クラス 101
教会員になるためのクラス
5 月 11 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 201
クリスチャンとして成長する
6 月 7 日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了した教会員

★クラス 401
クリスチャンとして成長する
6 月 15 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 301 を修了した教会員

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu